

佐渡国際トライアスロンに4年連続協賛

2014年9月6日(土)~7日(日)、全国餅工業協同組合は新潟県の佐渡島で行われた「佐渡国際トライアスロン大会」に4年連続で協賛しました。大会に参加した約2000名の選手をはじめ、応援に訪れた多くの人々、そして広く国内外へ向けて、国産水稲もち米100%でつくられた包装餅の素晴らしさをアピールしました。

“トライアスロンにはおもち” — 人々の意識に浸透中！

大会への協賛も4年目となり、常連の参加者をはじめ、一流アスリートや地元の人々の間でも“**トライアスロンにはおもち**”という意識が次第に浸透しはじめています。

◆9月6日(土)

開会式と選手登録の受付会場となったアミューズメント佐渡では、参加選手を対象に恒例の切り餅セット(切り餅、リーフレット、ポケットティッシュ)を配布しました。選手からは「毎年、お餅を配ってもらって本当に助かってます。当日の朝に宿で焼いてもらって食べてますよ」という声も聞かれました。

メイン会場では「佐渡ジュニアトライアスロン」が開催され、総勢102名の未来のアスリートたちが、それぞれの体力にあったショートコースのミニトライアスロンに挑みました。

島内から参加した小学6年生の男の子は、当日の朝お母さんにお餅入りの味噌汁を作ってもらい、レースの途中でおなかが空かないように3杯もおかわりして競技に挑んだのだそうです。

また、大会本番を翌日に控えて、メイン会場の下見に訪れる大人の選手も大勢いました。隣接する広場に設けられた全国餅工業協同組合の特設テントに立ち寄ってくれた男性は、「毎年、レースの前日にここでお餅を食べるのが完走するための験担ぎ(げんかつぎ)にもなってますよ」と笑顔で話してくれました。

お餅を使った補給食を手作りする選手も！

女性アスリートの中には、柚子と餅を使った古くからの保存食である「柚餅子(ゆべし)」を手作りして、トライアスロンのバイク(自転車)競技時の携帯食にしている選手もいました。この選手は日頃から市販の「モッフルメーカー(プレスもちメーカー)」を使って、包装餅とチーズなどの食材を組み合わせ、炭水化物をおいしく摂取するように心掛けているのだそうです。

このようにトライアスロンやマラソンのような持久力が必要なスポーツには、体を動かすためのエネルギー源となる炭水化物(糖質)が欠かせません。その栄養補給に、おもちがぴったりな食品であることがまさに、ここ佐渡でたくさんの人々に実証されているのです。



初秋の佐渡の青空の下、“元気の源”おもちパワーが全開！

◆9月7日(日)

大会当日、まだ夜が明けて間もない早朝6時から競技はスタートしました。今年は晴天に恵まれて気温もじわじわと上昇する中、まさにスタミナとの勝負の大会となりました。



トライアスロンレースとしては国内最長距離を誇る注目の「佐渡国際Aタイプ」では、兵庫県から参加した西内洋行選手(39歳)が大会2連覇をみごと達成しました。日本トライアスロン界の第一人者である西内選手は競技者であるとともに、後進を育てる指導者としても知られる人物です。

西内さんは福島県南相馬市の出身で、お餅は小さい頃からの大好物。豆餅や玄米餅を自分でついたり、ずんだ餅や磯辺餅を好んで食べているのだそうです。また、競技中もバイクの時におなかが空くことが多いので、エネルギーを切らさないように携帯食を用意するのはもちろんのこと、前日から積極的に炭水化物を摂取することを心掛けているとのことでした。



全国餅工業協同組合は、前日に引き続き広場に特設テントを設けて、焼き餅約3000食を配布。醤油の香ばしい匂いが辺り一面に広がる中、レース後の選手や応援に訪れた多くの人々にお餅のおいしさを堪能して頂きました。



また、メイン会場脇には昨年に続き、あの「おもち大明神」が鎮座。選手たちの完走を祈念するとともに、勝負の行方を占うおみくじが大好評で、多くの人々の記念撮影スポットとなっていました。

さらにメイン会場では、地元のサドテレビによる生中継が行われ、島内のケーブルテレビネットワークと共に全世界へ向けてインターネット配信も行われていました。



そして、大会翌日の9月8日(月)にアミューズメント佐渡の大ホールで行われた表彰式・閉会式では、全国餅工業協同組合からのスポンサー賞をプレゼントする大ジャンケン大会を実施。佐藤食品工業(株)の佐藤浩一取締役がステージに上がり、会場を埋めた約1000名の参加者と白熱のジャンケンを行いました。

みごと勝ち抜いた2名の方に切り餅一年分(365個)がプレゼントされました。



今大会を通じて、参加者の方々から「佐渡のトライアスロンに来ると、お餅が思い浮かぶ」という旨の言葉を数多く頂きました。“トライアスロンにはおもち”そして“スポーツにはおもち”という意識を皆様の心にさらに深く浸透させて、お餅が佐渡トライアスロンの風物詩の一つとして定着するようにしていきたいと思えます。

